

# こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: http://www.konbukuroike.com

2020年6月

第74号

## 主な予定

### 土壌動物による自然の豊かさ調べ

6月6日(土)

9:00~16:00

於: 管理棟

本来なら毎年恒例の「保全活動報告会」を、2020年3月15日に東大柏キャンパスで開催する予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルスの蔓延の恐れがあることから、今年度の報告会が中止となっております。

しかし、既に原稿は揃っておりましたので、各発表者の了解を得て、こんぶくろ池通信にてご紹介させていただきたいと思っております。

第1回目はNPO調査班の徳永さんによる発表原稿です。

### チェーンソー補講

6月18日(木)

13:30~16:00

於: あげぼの山農業公園

### ズミの花への訪花昆虫調査報告 (2019年4月実施)

徳永 さと子

ズミの保全・再生を考える上で、果たして結実~実生の発生までの可能性は期待できるのかという疑問があった。その為、手掛かりのひとつとして、訪虫による受粉がどの程度なされているのか、開花中のズミの周辺にて目視による訪虫の確認と、一部捕虫網による採集調査を行った。

調査は3日間、地金堀北に生育しているズミの中で、比較的樹間にゆとりがあり調査し易い9番、11番、12番(下図、矢印にて示した★印)周辺にて、湿地を傷めないよう少人数(1~2名)が行った。

### 初夏の植生調査: 体験学習

6月21日(日)

於: 管理棟前



□日付 日時: 4/20(土) 10:00~12:00

天気: 晴れ

気温: 15度~17度

確認できた昆虫:

分類	種名	1～2匹	10匹以下	数10匹	50匹以上
チョウ目	ナミアゲハ	●			
	(シジミチョウの仲間)	●			
	(シロチョウの仲間)	●			
ハチ目	二ホンミツバチ		●		
	セイヨウミツバチ			●	
	キムネクマバチ		●		
	(ヒメハナバチの仲間)				●
	(アシナガバチの仲間)	●			
	(スズメバチの仲間)	●			
	(ヒメバチの仲間)	●			
ハエ目	(ガガンボの仲間)		●		
	ナミホシヒラタアブ		●		
	(オドリバエの仲間)	●			
	マダラメバエ	●			
甲虫目	(キスイモドキの仲間)	●			
	(ハムシダマシの仲間)	●			

**2日目** 日時：4/22 (月) 10:15～12:20

天気：晴れ

気温：21度～25度

確認できた昆虫：

分類	種名	1～2匹	10匹以下	数10匹	50匹以上
チョウ目	カラスアゲハ		●		
	クロアゲハ	●			
	ナミアゲハ		●		
	ミヤマセセリ	●			
	モンシロチョウ		●		
ハチ目	キムネクマバチ			●	
	セイヨウミツバチ			●	
	二ホンミツバチ			●	
	(ヒメハナバチの仲間)				●
ハエ目	(アブの仲間、未同定)			●	
	(ハエの仲間、未同定)			●	

**3日目** 日時：4/24 (水) 10:15～11:45

天気：曇りのち雨 (高湿度)

気温：20度

確認できた昆虫：

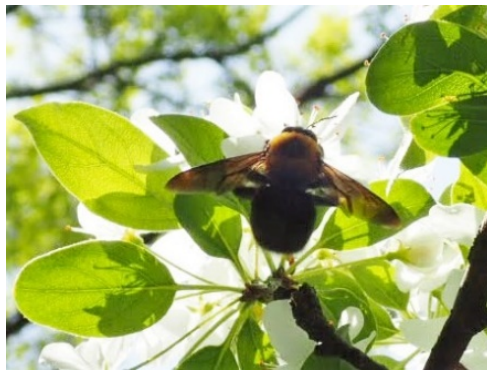
分類	種名	1～2匹	10匹以下	数10匹	50匹以上
チョウ目	(アゲハチョウの仲間)	●			
ハチ目	キムネクマバチ		●		
	(セイボウの仲間)	●			
	セイヨウミツバチ		●		
	ニホンミツバチ	●			
	(ヒメハナバチの仲間)		●		
ハエ目	(アブの仲間、未同定)		●		
	(オドリバエの仲間)	●			
甲虫目	(ケシキスイの仲間)	●			

### 考察

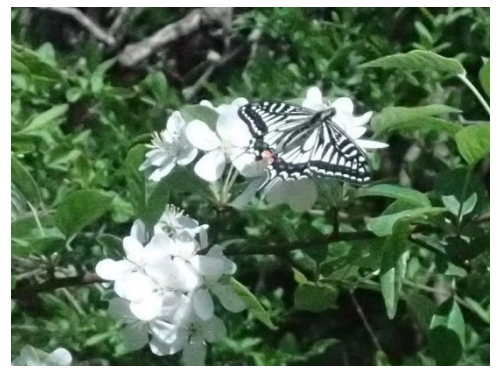
- ① 送粉者であるか否かに関わらず、多くの訪花昆虫の確認ができた(クモを含む)。
- ② 観察数から、ヒメハナバチ科、ミツバチ科の2種が訪花昆虫としてメインの役割を担っていると考えられる。送粉者以外の昆虫の活動も活発である。
- ③ 十分な日照があり、気温が上がった22日は、多くの訪花昆虫が観察できた。訪花昆虫の種類や数は、時間帯、天候、着花位置などに影響を受けることが分かる。
- ④ 20日に確認したキスイモドキの仲間とみられる甲虫は、イチゴの花に産卵し、孵った幼虫は花を餌として成長する。今回は1匹のみの確認であったが、仮にそのような昆虫が異常に多く発生すれば、ズミの花の結実に影響を及ぼすことも想像される。
- ⑤ 観察した昆虫それぞれの生態を考えた時、送粉を担う昆虫がいたり、それを捕食するものが現れたり、またその捕食者も送粉を担う場面があり、クモなどの別の生物に捕食されることもあったりと、その相互関係は我々の想像を超えて極めて複雑であるということ。④などの危惧への過剰な心配は無用で、バランスのとれた多様性の必要性を感じた。(送粉昆虫の外敵がいる = ×ではなく、= 一定数の、または豊富な送粉昆虫がいることの証という見方もできる)



ヒメハナバチの仲間



吸蜜中のキムネクマバチ



ナミアゲハ



ナミホシヒラタアブ



カラスアゲハ



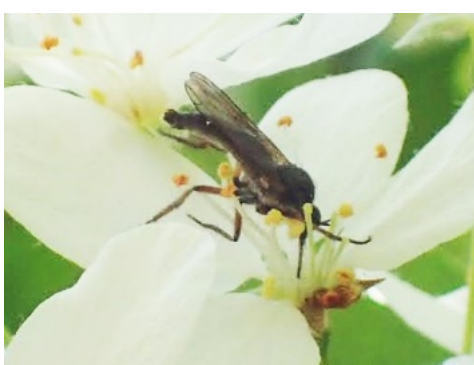
ニホンミツバチ



キスイモドキの仲間？



オドリバエの仲間（肉食でありながら、蜜も舐めることを確認）



オドリバエの仲間 ♀



マダラメバエ（ハナバチなどに寄生する）



ズミに張られたゴミグモの巣



ヒメバチの仲間か？（クモに寄生す

## 新入会員紹介

### 西原 喜代子さん



参加の動機：自然観察が好きだから

趣味・好きなこと：読書、山登り

貢献できそうなこと：調査

取り組んでみたいこと：花、昆虫、鳥（生きもの）を知りたい



## NPO 法人 こんぶくろ池自然の森 10周年記念寄稿 ③

『NPO 法人こんぶくろ池自然の森』設立 10 周年にあたって

初代会長（特別顧問） 森 和成 様

もう 10 周年になるのですね。  
設立時の写真、探してみたら出てきました！！懐かしいですね。



私は、初代会長としての任につかせていただきましたが、とても貴重な体験を多くさせていただいたこと、改めまして、携わってくださった皆さまに心から感謝申し上げます。

現在は、軽井沢を拠点とし、上信越高原国立公園内で、自然体験活動だけでなく、CAMP 等もできる、ライジングフィールド軽井沢という場づくりをしており、自然と共生する場づくりの活動を継続しております。

当時の活動を通じ、いくつかの賞を頂戴したことも、今の活動に生きています。

### <当時の受賞履歴>

2010 年 第 2 回「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」 日本生態系協会 選出

2011 年 日本自然保護協会 『沼田実賞』 受賞

2012 年 市民が創る環境のまち“元気大賞” 受賞 (eco-japan 内閣府、復興庁、総務省、外務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、全国知事会後援)

2012 年 国土交通大臣賞 『みどりの愛護功労者』 受賞

2013 年 国土交通大臣賞 『手づくり郷土賞』 受賞



### ◆一人の力では限界がある 仲間がいるからこそできることがある

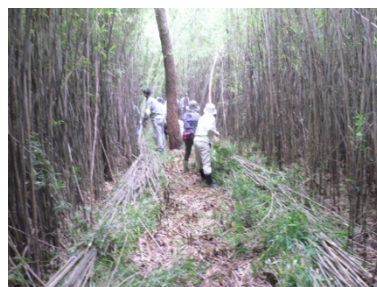
私自身、元々のご縁は、私の自宅が、今の『こんぶくろ池自然博物館』の隣地であったということからでした。

当初は、「ごみ捨て場の森」、「うっそうとした気味悪い森」でした。隣地だったので見るに絶えず、ひとりでゴミ拾いからスタートしたり、ごみを捨てられないように道路周辺の荒れた場所を刈払機で草刈りしたりという活動からのスタート。

でも、一人の力では限界あり、「あの場所を何とかしましょう！」と、柏市役所を訪れたのが最初で、柏市役所としても、柏の葉キャンパス駅周辺の開発に絡めて、あの森を残していこう！という方向性になり、2005年ころだったか、基本計画も策定頂き、より多くの皆様の力を以てして整備活動も本格化していきました。

その後は、民間でのボランティア組織立ち上げ、東京大学や千葉大学、柏市だけではなく、千葉県や国土交通省等の行政、近隣の民間企業等、『産官学民』の連携で、整備を進めていきました。

当時、柏市の姿勢として素晴らしかったのは、『職員ボランティア』をも組織し、市役所の職員の皆様も、毎週のように活動に参画してくださっていたことです。口先だけで、どうこうするわけではなく、実際に、共に泥まみれになりながら、ゴミ拾いやら、泥かきやら、劣勢木の伐採やらの活動に、共に取り組んでいただきました。



Before

After



## ◆目的（思い）を共有してこそひとつになれる！

その後、柏市としての土地の買い取りも進み、いよいよ指定管理者を明確化して、公園としてもオープンしよう！となった際に、ボランティア組織をベースにNPO法人化。これも、簡単にはいかず…。

里山活動を主活動とするボランティア組織と、調査研究活動を主活動とするボランティア組織、特にこの2つは、森の整備に関する手段の違いから、対立することも少なからずある中で、なかなかひとつにまとまりませんでした。

いよいよNPO法人を設立せねばならない！となった時、皆さまにお聞きしたのが、「何のためにこの活動を行っているのでしょうか？」という目的でした。すると、みんな一緒だったんですね。「未来に向けてこの貴重な自然、森を残していきたい！」と。この目的の確認ができてからでしょうか、皆が、一枚岩にまとまり、その目的のために、最適な手段を共に考え始めました。

目的とは、何のためにその活動をするのか？それがあるのか？の『思い』ですから、「思いをひとつにする」とは、まさに目的を共有することなのだと思ふことができました。

- ・人は手段には共感しない。目的にこそ共感する。
- ・目的を共有できれば強固なチームづくりができるということですね。

## ◆10周年をひとつの機会として改めてより多くの人と『思い＝目的』の共有を！

私は、今、生まれ育った柏の地を離れ、国有林野、かつ国立公園内で、自然体験活動を通じ、子供たちの生きる力を高める場づくりをしたい！という思い＝目的とした活動を継続しています。

こんぶくろ池自然博物公園に関しても、この10周年をひとつの機会として、改めて、何のためにこの活動を行っているのか？現NPO法人のメンバーだけではなく、柏市の市長を始めとした職員の皆様、近隣に住む地域社会の皆様と、その『思い＝目的』を焚火でも囲いながら、共に語り合い、改めて、次の10年に望めると良いですね。

なんといっても『市民で育てる100年の森 こんぶくろ池自然博物公園』ですから！

## 5月理事会

日時：2020年5月30日（土） 10:00～12:20

出席理事：岡本、上田、北田、中川、藤原、萩原

### 1. 審議検討・確認事項

#### (1) 新型コロナ緊急事態宣言終了後の定例活動および契約当番運営の再開について

- 5/25 緊急事態宣言解除とはなったものの、感染リスクは残るため、契約当番が実施すべき殺菌消毒等の感染防止対策をまとめ、大きな用紙に手書きして管理事務室内に掲示する。
- 当 NPO の H P に来園者向け注意喚起文言を掲載する。
- 当園トイレ使用不可時に一号近隣公園のトイレを案内する案内地図が古くなっているため、この機会に案内地図の貼替を行う。
- 定例活動再開後も新型コロナの影響は残るため、一定期間は活動参加者数が再開前より減少する可能性もあるため、理事間での情報共有化を緊密に行うことにより、当 NPO 全体での作業の優先順位付けを行っていく。

#### (2) コリドーエリア外縁の除草作業計画について

- 「臨時業務日誌」は中川案を承認。
- 手当は契約当番と同額とする。
- カラーコーン・飛散防止ネット等については、基本的には必要数量を当 NPO が購入することとするが、飛散防止ネットについては柏市よりの借用の可能性について確認する。

#### (3) 手賀沼流域フォーラム地域企画について

- 10/18（日）「きのこ観察会」を藤原理事中心に開催することを承認。

#### (4) 諸手当支給について

- 合同活動日の支給を原則とする。
- 各会員への支給は岡本・萩原・上田・北田の4理事が担当。

#### (5) 当 NPO リーフレットの増刷について

- 小規模改訂を行い、3,000部印刷する。

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。